令和４年９月９日

香川大会ご参加の皆様

全国国公立幼稚園・こども園長会会長　箕輪恵美
香川大会実行委員長　滝 知代

第６９回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会
香川大会参加者からの質問に対する発表園の回答について

初秋の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。

先日は、第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会にご参加いただき、ありがとうございました。本大会のテーマを「子どもの豊かな未来につなぐ幼児教育の“今”を考える～心いっぱい　体いっぱい　遊びこむ子どもを育てよう～」とし、オンラインにて開催いたしました。皆様方と直接お目にかかって、幼児教育について語り合うことはできませんでしたが、ライブ配信と、大会専用ホームページでの配信を通して、全国の幼児教育関係者の皆様と多くの学びを共有し、幼児教育の質を問う機会になったのではないかと思っております。

特に、コロナ禍という困難な状況の保育現場において、研究発表並びに分科会提案発表での素晴らしい実践をご提供いただきました諸先生方には、深く感謝申しあげます。大会終了後に参加者の皆様からいただいた研究発表並びに分科会提案発表園へのご意見・ご質問に対して、発表者からのご回答をいただきましたので、９月末まで全国国公立幼稚園・こども園長会のホームページに掲載いたします。多くの皆様にご覧いただき研修をより深めていただければと思います。今後も、質の高い幼児教育を目ざして学び合っていきましょう。

もくじ

研究発表　１【教育課題】　・・・・・　３ページ

２【教育内容】　・・・・・　５ページ

３【園経営】　・・・・・　６ページ

分科会　【第１分科会】園経営　・・・・・　７ページ

【第２分科会】教育・保育　・・・・・　１１ページ

【第３分科会】小学校との連携　・・・・・　１３ページ

【第４分科会】子育ての支援　・・・・・　１５ページ

【第５分科会】特別支援教育　・・・・・　１８ページ

※ホームページへの掲載期限について

令和４年９月３０日（金）までの間掲載いたします。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会

アンケートに寄せられた質問等への回答

研究発表　1【教育課題】
発表テーマ　『子ども発　社会に開かれた教育課程の実現　～「つなぐ」から「つながりたいへ」～』
園名・氏名　新潟県　新潟大学附属幼稚園　名塚　裕子

質問
実践の中に義足を牛乳パックで作った姿について、私がその場でいたらどう受け止めどう言葉がけをするだろうと考えた。実際どのように受け止めどう援助したのかについて、人権の面からも大切な場面だと思いお聞きしたい。

私どもの園では、自発的な活動として、子どもがやりたいと思う遊びをする時間を保育の中心に据えています。この遊びの時間に、年長の子が牛乳パックで義足を作りました。夏休み明け、特に年長児から「オリンピック」「パラリンピック」の言葉があふれ出て、担任は新聞記事や図書館の本を集めました。選手に興味を持った子は、義足の選手の活躍を思い出すかのように、写真を見比べ試作していました。その様子は、真剣そのものでした。その後、遊戯室では、ラップの芯で作ったハードルや幅跳びのマットなどが並びました。かけっこレースでは、マントをつけた年少児や人形を負ぶった子も、スタートラインに並び、合図で走りました。教師たちは、製作中は見守り、レースが始めまると「みんな（義足のランナーや小さい子たち、幅跳びやハードル走の選手たち)、一緒に走るんだね」と言ったそうです。「そりゃ、そうだよ」とスターターは答えました。このご質問に関連して、「オリパラ遊びの写真で、義足をつけた子どもさんがいた。子どもの中に障害をもつ人が自然に存在し、イメージされているのだと感じた。」とのご意見がありましたが、まさに、社会にはいろいろな人がいるということを当たり前のように受け入れている遊びの場面と捉えています。

質問
体験を大切にされていたが、オンラインでの運動会を経験した後、どのように遊びに活かしたのかを知りたい。子どもの変容はあったか。

実践１「市外の２園とつなぐオンライン運動会」は、やはり初年度の取組で「大人がつなぐ」部分が多かったです。学生さんは競技やプログラムのアイディアを練り、子どもたちは「どうやったら自分たちのことが伝わるか」ということを初めて考えました。求められたことを学級で話し合う形になりましたが、競技で使った用具をその後も置いておいたので、それで遊んだり、年下の子にやり方を教えて遊んだりすることがありました。園の外には違う世界があることを目の当たりにし、改めて自分の園や目の前の友達のことを考えるきっかけになりました。

実践２「留学生とのオンライン運動会」や実践３「子ども発ボッチャ大会」では、広い世界や多様な人々と出会える機会を得て、自信を持ったように思います。年長児は学級の仲も深まり、自分の遊びを大切にするように友達の遊びや存在を大切にするようになった感じがありました。

質問
社会に開かれた～という意味は、もっと個の内面に向かうものではないだろうか。この実践の後、家庭でどんな話題や取り組みがなされていくかを見届けていかれてはどうだろうか。

普段の保育では、遊びの中での見取りから子どもの育ちを見つけたり、多面的な子ども理解を深めたりすることに注力しています。この実践も、外部とつながって無事に終わらせることが目的ではないと思っていますが、つながる道筋がついたことに安心して子どもの受け止めを軽んじていないか反省が残るところです。どんな内的経験がなされるかを見るために、保護者アンケートで事前事後の子どもの様子の情報を得たり、子どもの言動にどの経験が関連付いているかを職員で話し合ったりしました。なにより保護者も巻き込んで家族で共通体験をしたことで、保護者にも協同の視点をもっていただけたことに価値があり、今後も継続していきたいと考えます。

このたびは、発表の機会を頂戴し、本当にありがとうございました。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

研究発表　２【教育内容】
発表テーマ　遊びこむ子どもを育む
園名・氏名　山形県　山形大学附属幼稚園　山川哲也

質問 ・「遊び課題」「個別性」という言葉の定義や定義に至る取組について知りたい。

①「遊び課題」という言葉の定義や定義に至る取組について

「遊びこむ子どもを育む」という研究主題を掲げるにあたって、子ども達の今の姿について話し合う中、主体的に遊ぶ姿をめざしたいと考えました。そこで、どんな姿を主体的に遊ぶ子どもと捉えるのか、まずは文献から明らかにしてみることにしました。河邉貴子先生は、「子どもの内からの欲求によって行動が起きる状態、つまり自己課題をもって遊びに取り組む状態のとき、子どもは実に『主体的』に行動する」と述べています（『遊びを中心とした保育』萌文書林、2005 年）。さらに、河邉先生の文献（『遊びを中心とした保育とアクティブ・ラーニング』幼児教育じほう、平成 29 年７月）を参考に、**「遊び課題の生成」（モノ、人、コトに関わることによって自己を発揮し、遊びの状況を変化させようとしているか）**を視点の一つとして遊びを読み解いていきました。本園では、「遊び課題」という言葉を**「子どもの内からの欲求によって『主体的』に取り組む自己課題」**と捉えてきました。

５年次となる昨年の研究の中でも、そもそも、「遊び」と「遊び課題」の違いとは何だろうかということが話題になりました。ただ何となく遊んでいるだけでは、まだ「遊び課題」になっていない状態であり、主体的態度を伴った「遊び」になったときに「遊び課題」となると捉え直すに至っています。

②「個別性」という言葉の定義や定義に至る取組について

本園では、丁寧な事例検討を基本に据えながら、一人一人の育ちを、遊びのプロセスの中で見とっています。

遊んでいる子どもの様子を追っていくと、他者（保育者や友達など）と関わる姿にはそれぞれに特徴が見えてきました。例えば、保育者を介して友達と一緒に過ごす楽しさを味わうことで、「もっと一緒に友達と遊びたい」という姿につながる子ども、保育者との関わりだけではなく友達との関わりの中で自分のやりたいことを見つけていく子ども、得意なコトを介して友達と関わり、その関わりを通してさらに遊びが楽しくなる子ども･･･などという特徴です。このような、**子どもの特徴、特性、これまでの育ちなど、その子らしさ**のことを**「個別性」**と捉えています。

５年次となる昨年の研究では、他者との関わりだけでなく、遊び課題の生成について、どのように遊び課題を立ち上げていくかという点においても、その子らしさがよく表れていることが分かってきたところです。

関わりや遊び課題の生成についての個別性が見えてきたことで、その子らしさを支える保育者の援助の在り方が明確になり、その子の育ちにつながっていくと考えています。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

研究発表　３【園経営】

発表テーマ　未来の創り手となる心豊かでたくましい子どもの育成を目指して
～カリキュラム・マネジメントを通して組織力向上へ～

園名・氏名　兵庫県　神戸市立たまつ幼稚園　中土井　智子

Ｑ１．カエルを池に戻そう、水をかえようと、子どもが気付くための保育者の支援はありましたか。
これまで、どのような経験をしてきたからこのような姿が見られたのですか。

・ダンゴムシやアオムシ、カエルなど、子どもが生き物を見付けた時に、捕まえた後どうするかをクラスのみんなで毎回丁寧に話し合うようにしている。アオムシが何を食べるか調べ、餌になる葉を毎日見付けて世話をし、蝶にかえしたうれしい体験も、子どもたちの中には生き物と関わる喜びを感じる経験となっている。
・今までの生き物との関わりから、カエルについても「動く虫を食べる」と図鑑で調べた子どもたちが、「毎日生きた虫は捕まえられない」「逃がすなら家族がいる田圃に逃がそう」と話し合い、捕まえた田圃に逃がした。捕まえるだけでなく、どのようにすれば生き物が元気に過ごせるかをクラスみんなで考えていくことで、子どもたちの中に思いやりの気持ちが芽生え、このような姿につながっているのではないかと思う。
・子どもの気付きを支えていくには、些細なことであっても教師が答えを出すのではなく子どもに問い掛け、一緒に考えていくという、子どもの思いに寄り添う援助を常に心掛けている。
・カエルごっこやダンゴムシごっこなど、みんなでそのものになって遊ぶ（身体表現）場を大切にしている。そのものになって遊ぶ経験が、生き物（そのもの）の気持ちになって考えることにつながっている。
・２年保育の中で、年長児の生き物との関わり方を年少児が側で見たり、一緒に世話をしたりすることで学んでいることが大きいため、そのような場を丁寧に捉え、時には教師が思いのつなぎ役になることもある。
・教師自身が生き物に対する関心や育てる上での知識をもっておくことが大切である。生き物との関わり方や住みやすい場づくりなどには、教師の感覚が自然と子どもに伝わっていく。生き物についてよく知っている教師から、住処のつくり方など学ぶことで、教師自身も知る喜びを感じながら感覚を磨くことにつながった。

Ｑ２．様々な研修の取組をされていることがよく分かったが、職員一人一人が主体的に保育について語り合うために、どのように工夫されているのか具体的に知りたい。

・週１カンファレンスでは、環境の構成や援助など、よくなかったことを正すのではなく、こんな見方もある、こうしたらもっと楽しくなるのではないかと前向きな話し合いをすることで、教師間で受け入れてもらえる安心感や自分から話そうとする気持ちにつながっている。
・一つのエピソードについて職員でじっくり話し合うことを積み重ねていくことで、みんなで考えていく雰囲気が培われていく。担任だけでなく提案者が毎回交代することで、フラットな関係で話し合えるようになっていった。
・職員室でなく、遊戯室に移動し、エピソードボードを見ながら互いに近い距離で話し合う場をつくったことも、振り返りしやすく、話しやすい場づくりになっていたと思う。
・エピソードから、みんなでその場の環境について考えを出し合ったり、実際に環境を再構成したりしたことは、とても楽しく、「またみんなで考えたい」という気持ちにつながった。
・養護教諭として保育の話し合いに加わることは、ずれたことを言っていないかなど気になることもあったが、エピソードを基に話し合うことで、どの立場の先生も自分なりの意見を伝えることができると思った。また、話し合いを積み重ねることで、子どもを見取る視点が少しずつ分かり、自分から意見や捉えを話すことにつながった。
・それぞれ立場は違っても、話し合いのベースに「子どもたちがよりよく育っていくために」という共通した思いがあるため、困ったこともみんなで考え合い、みんなで保育をしていこうと思える。

いただいたアンケートについて、職員で話し合った率直な内容を記載しています。改めてみんなで自分たちのしていることを振り返ることができ、貴重な機会をいただいたことに感謝します。ありがとうございました。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第１分科会】園経営
発表テーマ　「わくわくが生まれる環境を探る」～保育の語り合いから、保育の質向上に向けて～
園名・氏名　高知県　南国市立たちばな幼稚園　宮﨑啓子

質問 園評価の項目、具体的な内容、評価のまとめ方（回数や時期）について

園評価について今年度令和４年度に作成したものを参考資料として載せています。資料として載せている評価項目の他に【子育て支援】や【保護者・地域との連携】についても評価をしています。
評価項目を考えるにあたっては、研究主任、特別支援コーディネーター、親育ち支援などの担当の職員の意見ももらいながら設定しています。年度当初評価書についての説明を職員全員にし、中間で（１０月中旬ごろ）評価をし最終は１月中旬に評価をしています。一人ひとりの職員が行った評価を取りまとめ、取り組み指標や成果指標の結果は平均値をだし、取り組み状況・成果・課題・改善策については職員の意見をまとめて載せるようにしています。

南国市立たちばな幼稚園

第１分科会　高知県　参考資料

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				取り組み状況・成果・課題
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	意欲的にかかわり夢中になって遊び込むための教師の援助と環境づくり	〔教育課程・指導〕 保育の振り返りの中で子どもの姿から発達を捉え、ねらいとの関連から保育の改善を行う	4 週日案の改善から幼児一人一人の発達に必要な経験が得られるようにする		4 日々の記録の積み重ねから、発達を捉えたねらいとなっていたかを評価反省し、改善へとつなげることが出来た		
			3 日々の振り返り、評価・反省を重ねながら発達や必要な経験を意識した保育を実践する		3 振り返りから考えた援助や環境構成を翌日の保育で実践することが出来た		
			2 記録の振り返りからねらいに即した評価を行い、週日案の改善を行う		2 記録の振り返りから明日の保育を考えることが出来た		
			1 日々の振り返りをし、評価・反省を基に翌日の計画を立てる		1 記録の振り返りから幼児の経験していることを読み取るようにした		
		〔教育課程・指導 〕 意欲的に遊びを進めていける環境の構成	4 幼児自身で場を作ったり、準備したりできるように環境の再構成や材料・用具などを分類したり扱いやすいよう置き方を工夫する		4 環境として置かれたものからイメージを膨らませ、自分たちで遊びを進めていくようになった		
			3 幼児の興味・関心や育ちに応じ、用具・遊具・素材等が自由に選べるように用意する		3 興味をもって繰り返し遊んだり試したりするようになった		
			2 幼児の遊びや興味・関心に応じた用具・遊具・素材などを用意する		2 環境として置いてあるものに興味を示し、触れたり試したりするようになった		
			1 幼児が手に取りやすいところに用具・遊具・素材等を用意する		1 幼児は環境として置いてあるものを見ていた		
◆職員の育成・資質向上や運営	教師間の連携を深め課題達成に取り組みそれぞれの個性を発揮した体制づくり	〔特別支援教育〕 園内支援体制の充実	4 学期に1回程度全職員参加のケース会を開き、個別の指導計画についての評価反省と見直しを行い教職員間で共通理解する		4 幼児の発達の特性や課題を捉え、教師同士が相談しながら教材や環境に取り入れたりする等環境を工夫するようになった		
			3 個別の指導計画に基づき担任と加配教諭が指導内容や指導方法を確認し、連携しながら保育を進める		3 幼児の記録に基づき指導内容や指導方法について共通理解を図り、全教職員で情報を共有し学び合う姿が見られるようになった		
			2 個々の発達の特性を捉えた個別の指導計画を作成する		2 コーディネーターを中心に全教職員の協力体制が進むようになった		
			1 個に応じた記録の工夫を行い日々の振り返りから評価反省をする		1 幼児のできることを受け止め認めていくことが出来た		
		〔安全管理〕 安全点検や教職員・幼児の安全対応力を高める	4 災害発生時の個々の動き、園全体の動きを意識し、訓練時に実践する		4 避難時の行動がわかり、進んで行う子ども 70%以上		
			3 遊具・用具・施設・設備等の安全点検日を設定し実施する		3 60%以上		
			2 警察・消防と連携し、研修を受け緊急時の対応を身に付ける		2 50%以上		
			1 危機管理マニュアルを折々に読み、役割を明確にする		1 教師の指示や放送を聞き、落ち着いて避難できるようになった		

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第１分科会】園経営

発表テーマ　「意欲的に取り組む子ども」を育む幼稚園づくりをめざして
～学校評価を生かしたカリキュラム・マネジメント～

園名・氏名　香川県　高松市立大野幼稚園　橘　静香

質問
① 園評価の項目はいくつ策定しているのか。
② 評価をするのは、年何回か。
③ それぞれの職員が評価したものをどのようにまとめているのか。
④ 取組指標に基づいた評価の他に、学級経営案についての評価反省もしているのか。

① 大会当日の副資料のように、指標の評価項目は「教育課程・指導」「教育環境整備」の２つで、それぞれ「取組指標」と「成果指標」を設定しています。その他、高松市教育委員会への報告書に添って園評価を行っています。その評価項目は、全分野を網羅した「発達や学びの連続性を踏まえた教育内容の充実」「豊かな心を育てる教育の推進」「生徒指導の充実」「運動に親しむ習慣づくりと体力の向上」「食育の推進と心身の健康づくり」「人権教育の推進」「特別支援教育の推進」「教員の資質向上と教育指導体制の充実」「安心・安全で質の高い教育環境の整備」「家庭や地域との連携・協働」「保こ幼・小連携教育の推進」「働き方改革・業務改善」の１２項目です。

② 指標を含め、学級経営案に基づいた評価を毎学期末（７月・１２月・３月の年３回）に行っています。しかし、次年度の目標や計画を設定するため、３学期はもう少し早い時期に行おうと実施時期を見直す予定です。

③ 各職員が記入した評価表を全職員に配布し、全員で振り返りを行っています。指標の捉えの違いにより成果結果に違いが見られますが、全員で話し合いをしていくと「そう捉えるなら、自分の学級の子どももこの結果になる」と結果を見直すこともあります。これまでは、出し合った意見を園長がまとめていましたが、今後は、共有したことを基に、全職員で園の評価として意見を一つにまとめて評価表を作成していきたいと思います。

④ 毎学期末に学級経営についての評価も行っています。こちらについても、全職員で各職員の評価について振り返っています。学級経営案は、目指す子ども像に関連した育ってほしい姿を出し、それに向けての保育者の支援や環境構成を考え作成しています。学期末には、その学級経営についての支援や環境構成の成果や課題、次学期に向けての改善点を評価しています。その際、特に重要と思う部分をゴシック体で表記し、そこを重点的に話し合うことで、限られた時間の中で全職員で評価できるように工夫しています。

質問
① 評価指標を作成し、実施したことで、今後どのような点を改善するとより良い評価指標となっていくと感じているか。
② 保護者からの評価としては、どのような取組をしているのか。

① 担任や特別支援教育加配といった立場により取組指標に書かれた支援や環境構成を行えなかったり、学年の発達により成果指標に書いた姿が見られにくかったりすることがありました。そこで、各職員が指標

によって評価する前に、全職員で取組指標や成果指標に書かれている内容が、自分の立場で評価できるか、学級の子どもにおいてもイメージできるかどうかを確認し、疑問や押さえておきたいことを出し合って、みんなで共有したうえで、評価を行っていくようにしました。このように、どの職員にとっても評価しやすいかどうかという視点で、少しずつ改善していっています。

② 保育参観、運動会、生活発表会等の行事の後は、アンケートにより感想や意見を聞かせてもらっています。運動会や生活発表会は、各学年のねらいにふさわしかったか、子どもは意欲的に取り組んでいたか、子どもの経験に基づく内容だったか等、具体的な項目ごとに評価をしてもらっています。こうしたアンケート項目について考えることが、園の取組の方向性を知らせることやそれについて意識していただく機会になっていると考えます。

また年度末には、生活習慣の定着や体を動かす活動、友達との関わり、地域との関わり、自然との関わり、表現活動、情報提供等、広く教育活動について評価をしてもらっています。

どのアンケートにおいても、評価項目に対する具体的な意見や評価項目以外に対する意見も自由に記述できる欄を設けています。

また、毎日の登降園時やＰＴＡ役員会、家庭訪問、個人懇談会等において、直接意見を聞くこともあります。その際には、終礼や職員会において報告して全職員で共有し、改善するようにしています。

回収したアンケートを集計し、数値化した結果や保護者からの意見、それに対する改善策等を紙面にて配布し、公表しています。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第２分科会】教育・保育

発表テーマ　遊びの中で幼児の論理的思考力を育む
～試行錯誤しながら主体的に遊ぶ幼児の姿を通して～

園名・氏名　東京都　杉並区立堀ノ内子供園　三好　友世

質問 事例の中のクレーンゲームを作るという発想は、どういうところから生まれたのでしょうか？

６月に保護者や在園児を招待するお店屋さんごっこがありました。どのようなお店がよいか、幼児が考えた際に、思い付いたお店がクレーンゲームのお店でした。その幼児は、クレーンゲームで景品をとった経験があったことからこの遊びを思い付く発想につながりました。

質問 ・他の年齢における論理的思考の育ちについてどのような育ちの過程があるでしょうか？ ・他の事例や３，４歳児の事例、そして論理的思考力についても知りたいです。

本園の研究報告が、「杉並区ＨＰ➡杉並区教育委員会➡杉並区立就学前教育支援センター➡就学前教育➡教育課題研究指定園➡令和元・２年度堀ノ内子供園教育課題研究報告書」から確認することができます。こちらに、3 歳児・4 歳児の事例や育まれる論理的思考力について記載しております。また、河邉貴子先生による寄稿「遊びを通して幼児の思考力を育む」が掲載されています。ぜひご覧ください。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第２分科会】教育・保育
発表テーマ　どきどき、わくわく　学びがいっぱい！
園名・氏名　香川県　丸亀市立城東幼稚園　川田　央子

質問
細かく分析されていて大変参考になりました。このように丁寧に記録をとり細かく分析するために話し合ったりする時間の捻出をどう工夫されているのかな？と思いました。

質問
子どもの姿に寄り添いながら、職員間で何度も話し合いを積み重ね、分析しながら日々の実践を積み重ねられていることが伝わってくる報告でした。ありがとうございました。職員間での日々の話し合いの重要性を感じつつも、自園においては、話し合いを深めていくことに難しさを感じることがあります。いろいろな意見を出し合っていくための工夫や取り組みについてご教授願えたらと思います。よろしくお願いいたします。

園内研修は、週一回の現職教育はもちろん、保育後の語り合いを日常的に行っています。保育者は職員間で共通理解した願いに基づき、目の前で起こる様々な出来事に直観的に瞬時に対応していて、その時に自らの援助をゆっくりと振り返ることはなかなか難しいです。その場では見ていなかったことや見えていなかったこと、分からなかったことなどを、保育者間で語り合い、子どもの姿や内面に深く気付いていくことで、保育の質が高まってきていることを感じています。

本年度は各年齢１クラスずつの３クラスということもあり、クラス担任との語り合いの時間は取りやすく、少人数のため話しやすい雰囲気です。しかし、令和２年度からの反省で、特別支援教育支援員との保育内容の共有や共通理解が図りにくい、という課題がありました。そこで、令和３年度から※振り返りシートを作成し、三つの視点から一日の保育を振り返り、帰る前に園長または教頭に振り返りシートを基に話をする時間を設けるようにしました。クラス担任が職員室に戻り、話に加わることもしばしばあり、かしこまった現職教育の時間に特別支援教育支援員が参加できなくても、クラス担任の考えを伝えたり、園内の遊びを共有したりするよい時間になっています。また、保育者のモチベーション、やる気の向上につながってきていることも感じます。

※＜振り返りシートの視点＞令和３年度
①子どもと一緒に遊びながら、子どもの心の中にある思いや声を聞こうとしたか。
②子どもの「やってみたい！」という気持ちに寄り添ったり一緒に考えたりしたか。
③各保育者が独自に視点を設定する

※＜振り返りシートの視点＞令和４年度
①子どもと一緒に遊びながら、子どもの心の中にある思いや声を聞こうとしたか。
②遊びが深まったり広がったり継続したりするための環境の構成の工夫をしようとしたか。
③各保育者が独自に視点を設定する

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第３分科会】小学校との連携

発表テーマ　育みたい資質・能力を小学校につなぐ

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた幼稚園生活を考える～

園名・氏名　愛媛県　久万高原町立久万幼稚園　矢野　龍

質問

小学校との合同研修において出てきた課題について、今後具体的にどのように理解を深めてもらうための工夫や取り組みを予定していらっしゃいますか？

○　幼小合同研修会を行う際には、実際の保育活動の場面を動画で紹介しようと考えています。幼児の思いや考えなど、心の動きが分かるように文字入れをした動画を視聴するとともに、その中で育ちつつある『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』についても伝えたいと思います。香川大学教授の片岡元子先生からも「実際の子どもたちの姿を『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の視点で見ていき、話をすると伝わりやすい」というご助言をいただいたため、今後取り組んでいきたいと考えています。

○　公開保育の指導案の教師の援助の部分に『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を記入しましたが、「分かりにくかった」という小学校からの反省を踏まえて、今後は新たに項目を起こし、活動ごとに『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を伝えていきたいと考えています。また、互いの反省を行う時には『小学校へとつながる部分』について振り返りを行うことで、小学校では、入学後に園で育ってきている姿を生かした授業展開につながっていくのではないかと考えています。

○　交流活動では、幼稚園・小学校それぞれ活動のねらいに加えて、その活動で育ってほしい姿を計画案に記入し、その視点を基に実践、反省を行うことで、幼児、児童の理解につなげられるのではないかと考えています。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第３分科会】小学校との連携

発表テーマ　育みたい資質・能力をつなぎ合うという意識を互いにもつために

園名・氏名　香川県　高松市香南こども園　　宮井　八重

質問
毎月、校区の小中で話し合いができるまでの関係ができていることに驚かされました。この交流は、どのように始まりましたか。

平成 23 年度、全人教報告に向けてより校区の連携を深めようと保幼小中、文化センター、児童館が話し合いを盛んにしたそうです。平成 24 年に香南こども園が開園したこと、同じ年に香南小学校が全人教で報告したこともあり、平成 25 年に赴任された香南中学校の校長先生の呼びかけで、引き続き校区のこども園、小学校、中学校がより連携していけるようにという願いのもと毎月の園長校長会をもつようになったと伺っています。主な話し合いの内容は、月中行事をもとにそれぞれの行事の把握やもち方の相談、情報共有です。協議したいことがあればざっくばらんに持ち寄っています。子どもや保護者の様子について情報共有も行っており、育ちを喜んだり、課題に一緒に向き合ったりしながら育ちを共に支える連携の基盤となっています。「こども園、小学校、中学校は三身一体」と今年度も心強く感じています。この基盤があるので、普段から気軽に電話をしたり、伺ったりと行き来がしやすく相談しやすい関係性につながっています。

質問
資質能力をこども園の現場においてとらえていく際、勤務形態が様々な職員がいる中で０歳から５歳児の子どもの育ちを共通理解していくための工夫についてもう少しご教授いただけたらと思います。

報告の中でもお伝えさせていただいたように、各年齢ごとに代表者が参加し、カンファレンスの時間をもてるようにしています。保育の状況によって毎回未満児の担任が参加しているのではありません。1 回の時間は 30 分～1 時間位で、未満児担任が参加する時は午睡時（13：00～14：00 の間）以上児担任だけの場合は 1 号認定児の降園後（14：45～16：30 の間）に主に話し合いをしています。報告で紹介した付箋を使ってという研修スタイルにこだわらず、参加職員の気になることを話題にする場合もあり、臨機応変なもち方にすることで参加しやすく、気軽に話し合いができる雰囲気づくりに努めています。今後、話し合いの過程が分かるよう、ホワイトボードを使って、休憩室に置き、直接会に参加していない職員も見たり書き込んだり、その時のメンバーでちょこっと話をしたりができるようになるといいなと思っています。これまでは現教主任がリーダーシップをとって会を進めてきましたが、職員間にカンファレンスが定着してきて、不在でもその時のメンバーで話を進めるようになってきています。ミドルリーダー育成という視点をもちながら、園長・副園長も参加できる時は積極的に参加し、園内で学びの共有を広げていきたいと思っています。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第４分科会】子育ての支援

発表テーマ　保護者と子どもの笑顔のために　～交流を通して 人とつながる かかわり合う～

園名・氏名　香川県　善通寺市立西部幼稚園　　横田真紀子

質問
　ちょこっとサロンについて毎回テーマを設けてとあったが、具体的にどんなテーマで話をしたのか。

「子育てについて」「子どものほめ方」「夏休みの過ごし方」などテーマを設けていた。「子育ての悩み・自分のこと・趣味のこと」など、気軽に話せるような雰囲気の中で話すようにした。

質問
　仕事をしていて参加できない保護者に対して、内容などについて何らかの方法で知らせているのか教えてほしい。

「ちょこっとサロン」の案内時に、前回の「ちょこっとサロン」で子育てのことや悩みなど話したことは知らせたが、話の内容については個人情報もあり、具体的に知らせていない。

登降園時に、保護者に「参加してみませんか」と直接知らせることはある。

質問
　情報発信の工夫として、スライドショーや動画を見る機会を設けているとのこと、どんな内容の動画を流しているのか教えてほしい。

クラスの遊びの様子や外部講師の方が来た時の様子

質問
　事例として取り上げてくださった以外「ちょこっとサロン」はどんなものがあったのか教えてほしい。

「小学生がいる親　集まろう」小学生がいる親が参加し、兄弟姉妹への対応、言葉掛け、悩みなどを話した。

「き組さん　集まれ」５歳児の親が参加し、ざっくばらんに話した。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第４分科会】子育ての支援

発表テーマ　家庭との連携から親子の気付きと築きへ～幼児期の睡眠の質を大切に考える～

園名・氏名　香川県　三木町立ししの子幼稚園　　穴吹直子

質問 三木町内の園で同じ取り組みをしたところがすごいと感じました。睡眠の質を意識することで生活習慣の見直しや親子のふれあいにもなる取り組みだと思います。今年度入園した保護者に対してはどのような働きかけをしたのか、また継続した取り組みの中で日中の子ども達の遊びの姿に何か変容はあったのか教えてほしい。

<u>今年度入園した保護者に対して</u>

・今年度入園した保護者に対して、取り組み方の趣旨を説明した手紙を添えて１学期末に取り組んだ。

・参観や学級懇談会時に子どもたちの状況（生活の様子、遊び、友だち関係等）を話し合い、今年度の取組として、昨年度から行っている「my リラックスシート」についても話し共通理解していった。

<u>継続した取組</u>

・継続した取組としては今年度、睡眠と生活リズムを関連させた子供向けのお話し会（５歳児対象・鈴木助教のお話し）を、町内一斉にオンラインで行う予定である。この取り組みは短期的、長期的スパンでそれぞれ変容していく子どもや家庭があるので、継続して保護者啓発を行い、子ども一人一人の生活がより良いものになっていくよう実践を深めていきたいと考えている。

質問 子育て支援において、睡眠に焦点を当てるという今までにない取り組みが、新鮮で勉強になりました。家庭での姿が幼稚園での姿にどう変化をもたらしたかという事例があることで、より子育て支援の広がりの可能性を感じました。そこでもう少し園での育ちや変化につながった事例をお聞かせください。

<u>事例　女児のその後</u>

・以前は、遊びの中でもめごとが多くあり、遊びが継続しないことが多々あった。取り組む中で話し合って解決しようとしたり、仲介役になる子どももでて、解決策をみんなで考えたりするようになってきた。

・自分の目標をもち、できなくても諦めず、最後まで友達と一緒にチャレンジする姿が見られている。

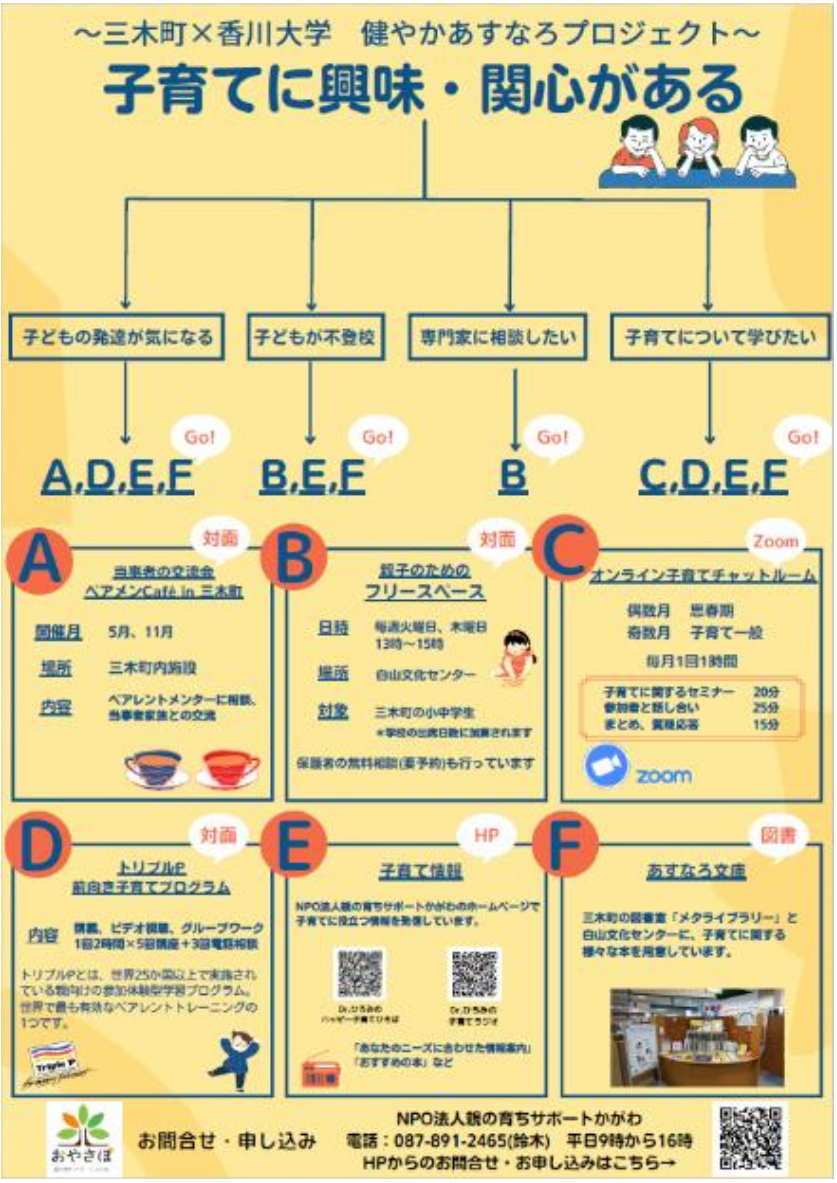
・以上のことがすべての要因ではないが情緒が安定し、前向きに物事を捉えることができ、相手の話に耳を傾けようとする姿勢も育ってきたと思われる。

<u>生活習慣の定着が難しい保護者</u>

・個別に声掛けをし、家庭で今困っていることを聞き、解決に向けて一緒に考えながら取り組むことで、登園時間が徐々に早くなり、日中活発に活動する子どもの様子が見られるようになった。

質問
鈴木先生のお話しがわかりやすく勉強になりました。今後も連携を続けていくのか。睡眠から違う観点でつながっていくのかをお聞きしたいと思いました。

・鈴木先生は様々な子育てに関する事柄の情報発信をされていて「NPO 法人　親の育ちサポートかがわ」を立ち上げられており、情報提供や必要に応じて個別相談に応じてくださっている。
（三木町×香川大学が協力し合い「健やかあすなろプロジェクト」を実施しており、子どもの発達で気になることや不登校、子育ての学びなどの場を「親の育ちサポートかがわ」が主催提供している。下記参照）
・保護者の子育ての不安や悩みをまず幼稚園でしっかりと受け止め、教職員が共通理解して関わったり、見守ったりしている。それと同時に専門的な見解が必要と判断した事例については、鈴木先生と情報を共有し、アドバイスをいただきながら関わり方を見直すようにしている。そして園が仲介しながら保護者と鈴木先生をつないで、直接子育てのアドバイスをもらっている。この事案の対象児はとても明るくなり自己表現もできるようになってきており、その後の様子や園での関わり方についても保護者や鈴木先生と情報交換をしている。今後も幼稚園と家庭が互いに同じ方向を向いて関われるようにこのような連携を続けていきたい。



第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第５分科会】特別支援教育

発表テーマ　集団生活や遊びの中でみんなで共に育ち合うための保育実践
～一人一人の子どもの発達をみつめて～

園名・氏名　徳島県　北島町立北島南幼稚園　浅野　真理

質問
○　PDCA サイクルをうまく循環させるために，どのような項目，内容の P プランを立てたのですか。

幼児一人一人に応じたきめ細かな指導が行えるよう，教育課程や指導計画を踏まえて，幼児の教育的ニーズに対応して，指導の目標や指導内容・方法を計画していった。また，計画を立てるにあたり，自分一人で考えるのではなく，他の教師から情報を得たり，保護者から家庭生活の情報を聞いたり，専門機関からのアドバイスを適切に得たりしながら実態把握をして，指導内容について協議し計画を立てていった。

具体的な項目としては，例えば，友達との関わりや集団への参加について，「園の行事や集団での活動に楽しんで参加する」という指導目標を立て，支援の手立てを，「学級でみんなと一緒にする活動では，見通しがもてるよう，事前に予定を伝え，活動内容を分かりやすく視覚的に伝える」「集団で活動を行う前に一対一で取り組み経験しておく」「安心して活動に参加できるように，教師との関係を大切にし，活動を楽しめるようにしていく」「幼児の好きなことや得意なことを生かして，少しずつ周りの友達と遊ぶ楽しさを味わえるようにする」とし，幼児のペースを大切にしながら，ありのままの姿を受け止め，様々な活動に安心して参加していけるようにしていった。

幼児が安心して活動に参加することができるように，全教職員で実態把握をしたり，共通理解をしたりしていきながら，計画を立てて実践し，評価・改善までのサイクルを繰り返していく中で，幼児の変容やこれまでの支援の振り返り，目標や手立てが適切であったか，一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し，必要に応じて計画の修正を行っていった。

質問
○　関係機関や保護者と具体的にどのように連携し，そこから得たことをどのように指導に繋げていったのですか。

保護者と毎日の降園時や懇談の機会を通して，情報交換を積み重ねていく中で，幼児の興味や関心，得意なことや不得意なこと等について共有し，保護者の思いや願いを聞きながら多角的に情報を集め，実態把握をしながら，指導の充実に生かしてきた。巡回教育相談の機会を通じて専門機関からの助言を仰ぎ，校内支援委員会で，全教職員で情報の共有を図り幼児理解をしていくことで，幼児に対して適した指導を組織的に行っていき，それをまた，PDCA サイクルで評価・改善し，指導に生かしていくようにしていった。

第 69 回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会香川大会
アンケートに寄せられた質問等への回答

分科会【第５分科会】特別支援教育

発表テーマ　一人一人が安心して生活し、自分らしさを発揮しながら共に育ち合うために
～　子ども理解から　学び合い　つながり合う　～

園名・氏名　香川県　三豊市立上高瀬幼稚園　秋元　恵子

質問①　保育ウエブや支援児マインドマップなど、様々な方法を工夫しながら、支援児の育ちを支えている取組は、遊びを通して支援児がクラスの友達とつながり、また、支援児の育ちも確かなものになると感じた。全職員で共通理解を図りながら保育を進めていくために、支援員の先生との話し合いの時間をどのように確保し工夫しているのか。

＜園内支援体制や研修方法の見直しに至った経緯＞

職員の勤務形態の多様化や、預かり保育利用児の増加傾向により、勤務時間内に、全職員が一緒に研修することが難しい。また、支援児の増加により、全職員で研修を行うと情報交換になりがちで、子どもの内面理解や支援についての悩みなどを、じっくりと話し合うことができにくくなってきた。

＜研修方法の工夫・改善について（令和２年度～）＞

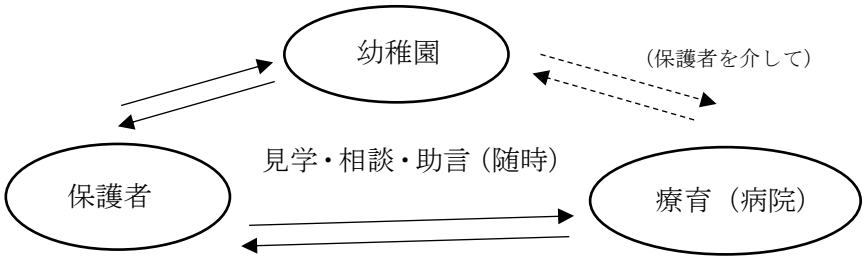
研修の内容	保育ウエブ研修・エピソード事例研修	支援児研修会
参加者	全クラス担任、園長	学年毎に行う。クラス担任、支援員、特別支援教育コーディネーター、園長
日程調整など役割分担	現職教育主任（担任）を中心に、園長と相談しながら日程を調整（随時、月末以外で）。 進行・記録は輪番制。	園長を中心に、特別支援教育コーディネーター（担任）と相談しながら日程を調整（月末または月始。マップ作成は学期末。） 進行はコーディネーター。
研修方法の工夫・改善 ・参加しやすい体制づくり ・話しやすい雰囲気づくり ・参加していない職員と共有する ㋒：保育ウエブ ㋓：エピソード事例	㋒**【楽しく学び合う研修へ】**事前にウエブを掲示しておき、知りたいことや質問したいことなどを各自整理して、参加する。１人（１クラス）ずつ、別々の研修日を設ける。（３学年のウエブを一度に研修すると時間がかかり、意見交換が十分できなかった、という反省から、Ｒ４より改善） 研修後は、職員室にウエブを掲示しておき、全職員で共有する。 ㋓**【じっくり語り合う研修へ】**事前に事例を読み『対象児の育ち』『周りの子の育ち』『保育者の関わりや環境構成』の３項目で付箋に記入し、参加する。	**【つながり合う研修へ】**学年毎に、別々の研修日を設け、支援員は６時間・１日の勤務体制で預かり保育も担当するため、研修中は他学年のクラス担任が、預かり保育を交代する。 保育終了後（14:30～）、机を囲んでお茶を飲みながら、リラックスできる雰囲気づくりを行う。 マインドマップ作成では、事前に『遊びや興味・関心』『生活・行動面』『言葉・対人関係』『連携』の４項目で付箋に記入し、参加する。会の事後に、付箋の内容や話し合ったことを基にマップを作成し、他クラスにも回覧。（会の最中にはマップを完成させることが難しかった、という反省から、Ｒ４より改善）

質問②　関係機関との連携の仕方や、そこから得たことをどのように指導につなげていっているのか。

＜連携から学んだことをどう生かしていくか＞

- 専門機関での取組や助言を参考にしながら、発達や障害特性に応じた支援だけでなく、園内の様々な場や状況、対人関係など、環境との関わりを通した一人一人のその子らしさを丁寧に見取る。
- 物的・空間的環境（教材、視覚的支援、落ち着ける場など）や、園生活の流れ、保育者の関わりや声掛けなど、可能なことから見直しや改善を行い、子どもの様子をみながら試行錯誤を重ねる。
- 指導や助言を参考にしながらも保育や支援がうまくいかないと感じるときは、園内で話し合い、保育者同士で考えを出し合いながら、常に柔軟に対応していく姿勢を大切にする。

＜Ｂ児（４歳児６月～９月）についての取組＞

関係機関	病院での療育（月２回利用）
連携方法	・療育の見学、言語療法士への相談や助言（随時）…感染予防のため、現在は保護者を介して連携。（伝達、連絡ノート、個別面談、サポートファイル「かけはし」） 
療育での助言 （６月）	「視線が合わず、人への関心は薄いが、遊びや生活の模倣はできている。興味・関心を通して生活経験や情報をため込んでいくことは、人とのコミュニケーションや言葉の獲得につながるだろう」（保護者との連絡ノートより）
支援記録 （７月事例）	Ｂ児は、子どもたちが巧技台を組み合わせて遊ぶ様子をじっとながめながら、周りを歩いている。片付けの時間になり、子どもたちが少なくなると、Ｂ児は支援員がそばで見守る中、一本橋に上がり、両手を使い恐る恐る一本橋を渡る。次は、支援員の手を持ち、梯子の橋に挑戦しようとする。しばらくすると、N児がやって来て、もう片方の手を持つと、Ｂ児は立って一緒に渡りきることができた。N児は、Ｂ児のうれしそうな声を聞き「Ｂさん、やった！」と弾むように言うと、支援員と顔を見合わせ喜び合った。
支援児研修会	Ｂ児は、自分から挑戦し、友達の関わりを受け入れながら自己実現の喜びを味わっている。Ｂ児が友達との関わりを心地よいと感じることができたのは、自ら動き出すまで見守りながら、友達と関わるタイミングを逃さずに、二人の心の動きを捉えて応答的な支援を行ったからではないだろうか。
療育での助言 （９月）	療育の際、この場面について、保護者を介して伝えてもらうと… 「視野が広がり、視線も少しずつ定まってきているようだ。園での遊び（興味・関心）や生活の中で、意思疎通や簡単な言葉（一語文）のやりとりを習得していくことが望ましい」
今後の支援	表情やしぐさ、行動での表現や意思疎通（保育者・友達と）の場面で、気持ちや思いに共感しながら、更に意識的に簡単な言葉のやりとりを支援していこう。